

令和5年度
相模原市国際教育特区
L C A 国際小学校
学校評価結果表

令和6年2月

相模原市

目次

| | |
|--------|------|
| I はじめに | P. 2 |
|--------|------|

| | |
|---------|------|
| II 法令事項 | P. 3 |
|---------|------|

- ① 学級編制に関すること (P. 3)
- ② 教科用図書は無償給与に関すること (P. 3)
- ③ 学校保健及び学校安全に関すること (P. 4)
- ④ 教育課程及び教材に関すること (P. 6)
- ⑤ 校務分掌に関すること (P. 6)
- ⑥ 教職員に関すること (P. 7)
- ⑦ 学校設置会社の業務及び財産の状況の公開に関すること (P. 8)
- ⑧ いじめ防止に関すること (P. 8)

| | |
|-----------|------|
| III 教育内容等 | P. 9 |
|-----------|------|

- ⑨ 教育課程に関すること (P. 10)
- ⑩ 学校の特色を生かした特別の教育課程に関すること (P. 12)
- ⑪ 学習指導に関すること (P. 13)
- ⑫ 児童指導に関すること (P. 15)
- ⑬ 教職員の研修・評価に関すること (P. 17)
- ⑭ 学校保健に関すること (P. 18)
- ⑮ 学校安全に関すること (P. 19)
- ⑯ 自己評価の実施状況に関すること (P. 19)
- ⑰ 情報公開・個人情報の保護に関すること (P. 20)

| | |
|-------|-------|
| IV 経営 | P. 21 |
|-------|-------|

I はじめに

1 評価の目的

この学校評価は、構造改革特別区域法（平成14年法律第189号。以下「法」という。）第12条第5項の規定に基づき、本市がLCA国際小学校の教育、組織及び運営並びに施設及び設備の状況について評価を行い、その結果を当該小学校に通知するとともに、これを公表することにより、児童がより良い教育活動等を享受できるよう学校運営の改善と発展を促すことを目的とする。

2 評価内容

この学校評価は、次の3分野について実施する。

- (1) 法令事項に関すること・・・(P. 3)
- (2) 教育内容等に関すること・・・(P. 9)
- (3) 経営に関すること・・・・・・(P. 21)

3 評価の手順

本市が設定した評価項目について、当該小学校による自己評価を基に、同校に対するヒアリング・視察等を実施し、評価を行う。なお、評価の過程では、教育内容や学校運営等について専門的な観点から検討するため、教育に関する学識経験者や公認会計士等で構成された附属機関（相模原市国際教育特区諮問委員会）へ学校評価について諮問するとともに、中小企業診断士が経営に関する詳細な分析・把握を行う。

4 評価の通知・公表

学校評価の結果については、法第12条第6項の規定に基づき、当該小学校に通知するとともに、本市のホームページ等で公表する。

Ⅱ 法令事項

| 表 題 1 学級編制に関すること | | | |
|------------------|---|----------|------|
| No. | 確 認 項 目 | 適○ 否× | 否の理由 |
| 1 | 1 学級の児童数は40人以下で編制されているか。(第1学年～第4学年については35人以下) 根拠法令[小学校設置基準第4条・ 公立義務教育諸学校の学級編制及び教職員定数の標準に関する法律第3条] 【確認書類】 児童数等異動報告書 | ○ | |
| 2 | 学年は同学年の児童で編制されているか。 根拠法令[小学校設置基準第5条] 【確認書類】 児童数等異動報告書 | ○ | |
| その他 | | | |

| 表 題 2 教科用図書の無償給与に関すること | | | |
|------------------------|--|----------|------|
| No. | 確 認 項 目 | 適○ 否× | 否の理由 |
| 1 | 教科用図書が児童に無償給与されているか。 根拠法令[義務教育諸学校の教科用図書の無償措置に関する法律第5条] 【確認書類】 教科用図書納入(返付)指示書、教科用図書給与児童名簿、教科用図書受領証明書明細表、使用教科書一覧表、全使用教科書 | ○ | |
| その他 | | | |

| 表 題 3 | | 学校保健及び学校安全に関すること | |
|-------|---|------------------|------|
| No. | 確 認 項 目 | 適○ 否× | 否の理由 |
| 1 | <p>定期健康診断が、児童と職員に対して行われているか。 (別紙検診項目全てを行った場合に○とし、一項目でも行わなかった場合は×とする。)</p> <p>根拠法令[学校保健安全法第13条・第15条、同法施行規則 第5条～第8条・第12条～第15条]</p> <p>【確認書類】 検査報告書、健康診断票、保健調査票等</p> | ○ | |
| 2 | <p>前項の健康診断の結果に基づき、疾病の予防処置又は治療の指示を、児童及び保護者又は職員本人に行っているか。また、必要に応じ管理指導表による管理指導を行っているか。</p> <p>根拠法令[学校保健安全法第14条・第16条、 同法施行規則第9条・第16条]</p> <p>【確認書類】 管理指導表、お知らせ書類等</p> | ○ | |
| 3 | <p>環境衛生検査が適正に行われているか。 (別紙検査項目ごとに適否を判断し、一項目でも×の場合は×とする。)</p> <p>根拠法令[学校保健安全法第5条・第6条、同法施行規則第1条、 学校環境衛生基準]</p> <p>【確認書類】 検査報告書</p> | ○ | |
| 4 | <p>学校医、学校歯科医及び学校薬剤師が配置されているか。</p> <p>根拠法令[学校保健安全法第23条]</p> <p>【確認書類】 学校医等依頼文書、職員体制表等</p> | ○ | |
| 5 | <p>学校保健計画を策定し、実施しているか。</p> <p>根拠法令[学校保健安全法第5条]</p> <p>【確認書類】 学校保健計画</p> | ○ | |
| 6 | <p>学校安全計画を策定し、実施しているか。</p> <p>根拠法令[学校保健安全法第27条]</p> <p>【確認書類】 学校安全計画</p> | ○ | |
| 7 | <p>危険等発生時対処要領を作成しているか。</p> <p>根拠法令[学校保健安全法第29条]</p> <p>【確認書類】 危険等発生時対処要領</p> | ○ | |
| その他 | | | |

別 紙 (表題3 3-1 関係)

<児童>

| 評価項目 | 定期健康診断が、児童と職員に対して行われているか。 | | |
|------|---------------------------|-------|------|
| | 検査項目 | 適○ 否× | 否の理由 |
| | 身長及び体重 | ○ | |
| | 栄養状態 | ○ | |
| | 脊柱及び胸郭の疾病及び異常の有無並びに四肢の状態 | ○ | |
| | 視力及び聴力 | ○ | |
| | 眼の疾病及び異常の有無 | ○ | |
| | 耳鼻咽喉頭疾患及び皮膚疾患の有無 | ○ | |
| | 歯及び口腔の疾病及び異常の有無 | ○ | |
| | 結核の有無 | ○ | |
| | 心臓の疾病及び異常の有無 | ○ | |
| | 尿 | ○ | |
| | その他の疾病及び異常の有無 | ○ | |

<職員>

| 評価項目 | 定期健康診断が、児童と職員に対して行われているか。 | | |
|------|---------------------------|-------|------|
| | 検査項目 | 適○ 否× | 否の理由 |
| | 身長、体重及び腹囲 | ○ | |
| | 視力及び聴力 | ○ | |
| | 結核の有無 | ○ | |
| | 血圧 | ○ | |
| | 尿 | ○ | |
| | 胃の疾病及び異常の有無 | ○ | |
| | 貧血検査 | ○ | |
| | 肝機能検査 | ○ | |
| | 血中脂質検査 | ○ | |
| | 血糖検査 | ○ | |
| | 心電図検査 | ○ | |
| | その他の疾病及び異常の有無 | ○ | |

別 紙 (表題3 3-3 関係)

| 評価項目 | 環境衛生検査が適正に行われているか。 | | |
|------|--------------------------|-------|------|
| | 検査項目 | 適○ 否× | 否の理由 |
| | 飲料水等の水質 | ○ | |
| | 飲料水等に関する施設・設備 | ○ | |
| | 教室等の換気、保温、採光、照明及び騒音 | ○ | |
| | その他 (具体的にお書きください) () | | |

| 表 題 4 | | 教育課程及び教材に関すること | |
|-------|--|----------------|------|
| No. | 確 認 項 目 | 適○ 否× | 否の理由 |
| 1 | 学期及び休業日に関して、適切に定められているか。 根拠法令[学校教育法施行令第29条] 【確認書類】年間計画書 | ○ | |
| 2 | 教育課程が適切に編成されているか。 根拠法令[学校教育法施行規則第50条～第53条] 【確認書類】各教科等年間指導計画書、道徳教育の全体計画 | ○ | |
| 3 | 文部科学大臣の検定を経た教科用図書又は文部科学省が著作の名義を有する教科用図書を使用しているか。 根拠法令[学校教育法第34条] 【確認書類】教科書使用届、全使用教科書 | ○ | |
| その他 | | | |

| 表 題 5 | | 校務分掌に関すること | |
|-------|--|------------|------|
| No. | 確 認 項 目 | 適○ 否× | 否の理由 |
| 1 | 校務分掌の仕組みが整えられているか。 根拠法令[学校教育法施行規則第43条] 【確認書類】校務分掌表 | ○ | |
| その他 | | | |

| 表 題 6 | | 教職員に関すること | |
|-------|--|-----------|------|
| No. | 確 認 項 目 | 適○ 否× | 否の理由 |
| 1 | <p>校長、教諭、養護教諭（看護師）及び事務職員が配置されているか。</p> <p>根拠法令[学校教育法第7条、学校設置認可基準第6条]</p> <p>-----</p> <p>【確認書類】 教職員名簿</p> | ○ | |
| 2 | <p>必要な教員免許状を所持する者が配置されているか。</p> <p>根拠法令[教育職員免許法第3条、学校設置認可基準第6条]</p> <p>-----</p> <p>【確認書類】 教職員名簿</p> | ○ | |
| 3 | <p>校長の資格について充足しているか。</p> <p>根拠法令[学校教育法施行規則第20～22条]</p> <p>-----</p> <p>【確認書類】 校長の就任承諾書及び履歴書</p> | ○ | |
| 4 | <p>教諭は必要な数が配置されているか。</p> <p>根拠法令[公立義務教育諸学校の学級編制及び教職員定数の標準に関する法律第7条、学校設置認可基準第6条]</p> <p>-----</p> <p>【確認書類】 教職員名簿</p> | ○ | |
| 5 | <p>司書教諭が配置されているか。</p> <p>根拠法令[学校図書館法第5条]</p> <p>-----</p> <p>【確認書類】 教職員名簿</p> | ○ | |
| 6 | <p>司書教諭のほかに、学校図書館の利用の一層の促進に資するための専ら学校図書館の職務に従事する職員（通称：学校司書）の配置に努めているか。</p> <p>根拠法令[学校図書館法第6条]</p> <p>-----</p> <p>【確認書類】 教職員名簿</p> | ○ | |
| その他 | | | |

| 表 題 7 | | 学校設置会社の業務及び財産の状況の公開に関すること | |
|-------|--|---------------------------|------|
| No. | 確 認 項 目 | 適○ 否× | 否の理由 |
| 1 | 業務及び財産の状況を閲覧に供する準備がなされているか。 根拠法令[構造改革特別区域法第12条第3項] ----- 【確認書類】 貸借対照表、損益計算書、事業報告書 | ○ | |
| その他 | | | |

| 表 題 8 | | いじめ防止に関すること | |
|-------|--|-------------|------|
| No. | 確 認 項 目 | 適○ 否× | 否の理由 |
| 1 | いじめ防止基本方針が策定され、公表されているか。 根拠法令[いじめ防止対策推進法 第13条] ----- 【確認書類】 学校いじめ防止基本方針 | ○ | |
| 2 | いじめ防止対策のための組織が作られているか。 根拠法令[いじめ防止対策推進法 第22条] ----- 【確認書類】 学校いじめ防止基本方針 | ○ | |
| 3 | 重大事態が発生した際の調査体制及び市長への報告体制は整っているか。 根拠法令[いじめ防止対策推進法 第28条、第32条] ----- 【確認書類】 学校いじめ防止基本方針 | ○ | |
| その他 | | | |

| 総合評価 | |
|--|--|
| 法令事項については、全24項目が適であることを確認した。法令事項については適切な対応が図られている。 | |

Ⅲ 教育内容等

【評定基準】

評定A 「優れた取組が行われている」

特色ある優れた取組が行われ、教育効果を上げている。

評定B 「適切な取組が行われている」

適切な取組が行われ、通常求められる学校運営が概ね実施されている。

評定C 「取組の改善が求められる」

取組に課題があり、早急に改善が求められる。

※英語教育に関する評価項目（表題10-1）については、構造改革特別区域計画（相模原市国際教育特区）に位置づけられている「英語イメージ教育（*）」の実施を前提として、取組を評価しています。また、その他の評価項目については、本市の公立校と比較した上で評価しています。
※昨年度の学校評価結果表における「課題・改善策」に対する取組に関することのみを記載した評価項目については、昨年度と同様の取組は継続して行っていることを確認した上での評価としています。

* イメージ教育

通常の教科の授業を第2言語で教えることにより、学習者に自然に第2言語を習得させる教育プログラムのこと。第2言語が英語の場合には、英語イメージ教育と言われる。

| 表 題 9 | | 教育課程に関すること | |
|-------|---|------------|--|
| No. | 評 価 項 目 | 評 価 意 見 | |
| 1 | 学校の教育課程の編成・実施の考え方について、教職員間の共通理解に努めているか。 【昨年度の課題・改善策】 新規採用や経験の浅い教員には丁寧に研修を行うと共に、継続した実施状況の把握が望まれる。 | 取組 状況 | ○年度初めの職員会議において共通理解を図るとともに、毎週の学年会における週案の確認を通して、実施状況を把握している。 ○初任者研修や校内研修において示範授業や授業参観、事後指導などを計画的に行い、継続的な指導体制を築いている。 |
| | 評 定 | B | 特色 ○外国人教員と日本人教員の役割を明確にし、それぞれの特性を生かしながら連携して学校経営を行っている。 課題・改善策 ○引き続き、新規採用や経験の浅い教員の状況を丁寧に把握し、適切な研修やフォローアップ体制を整えることが望まれる。 |
| 2 | 児童の学力・体力の状況を把握し、それを指導に生かそうと努めているか。 【昨年度の課題・改善策】 — | 取組 状況 | ○授業における観察記録やテスト、学力調査の結果などをもとに、児童一人ひとりの学習状況を把握し、個に応じた指導に生かしている。 ○日々の体育の授業から、体力の状況を把握し、児童の体力向上と指導改善に生かしている。 |
| | 評 定 | B | 特色 ○個に応じた指導の質を高めるために、エンリッチメントタイム（短時間学習）を有効に活用している。児童支援コーディネーターとの連携も図っている。 課題・改善策 — |
| 3 | 体験活動、学校行事などが、適切な指導・管理体制の下に適切に実施されているか。 【昨年度の課題・改善策】 学校として重点を置く体験活動や学校行事などを実施するために、更なる工夫検討を進めていくことが望まれる。 | 取組 状況 | ○教科の目標や学校行事の目的、系統性などを再確認し、内容を精選するとともに、感染症対策を講じながら、遠足、運動会、キャンプなどを計画・実施した。 |
| | 評 定 | B | 特色 ○イマージョン教育を意識し、全校的な行事は基本的に英語で進行するとともに、行事に関する保護者向け通知を一部、日本語と英語の両方で作成している。 ○自然体験や本物に触れる体験など、学校内だけでは経験できない活動を計画・実施している。 ○イマージョン教育を意識した体験活動を実施することで、日常生活の中で活用できる英語力が育成されている。 課題・改善策 ○児童・保護者・教職員の過度の負担とならないよう、内容の精選・見直しを継続的に行いながら行事や活動の充実を継続するとともに、各教科等の年間指導計画の適切な実施に努めることが望まれる。 |

| | | | |
|-----|--|------|--|
| 4 | 各教科等の年間指導計画等が、学習指導要領に則り作成されているか。 【昨年度の課題・改善策】 毛筆の授業は日本文化の理解に繋がる側面もあるので、特に高学年においては、しっかりと授業時数の確保に努めるよう留意する。 特別活動の学級指導においては、しっかりと理解ができるよう、内容に応じて日本語で指導を行うなど言語の選択を適切に行うことが望まれる。 | 取組状況 | ○学習指導要領に則った年間指導計画が作成されている。 ○毛筆の授業も計画に沿った指導が行われている。 |
| | | 特色 | ○教育課程特例校として英語科を設置し、系統的な指導を行うとともに、教科横断的な学習内容も適宜取り入れている。 |
| | 評 定 | B | 課題・改善策 ○特に高学年においては、引き続き、各教科等の年間指導計画の適切な実施に努めることが望まれる。 |
| 5 | 保護者から寄せられる意見や要望を教育活動や学校運営全般にどのように反映させているか。 【昨年度の課題・改善策】 保護者からコーディネーターへの相談が増えていることから、引き続き校内での情報共有体制を充実させていくことが望まれる。 | 取組状況 | ○行事ごとに保護者からの意見を収集し、教務会で内容や対応を検討したのち、職員会議において全教職員で共有している。 ○コーディネーターへの相談をまとめた「情報共有シート」を作成するとともに、学年、進路、児童指導等のリーダーを決め、連携して指導を行っている。 |
| | | 特色 | ○保護者と校長が、直接話やメールができる機会を設けている。 |
| | 評 定 | B | 課題・改善策 ○引き続き、保護者からの意見を収集する機会を適切に設けるとともに、教職員間の情報共有体制を充実させていくことが望まれる。 |
| 6 | I C T環境を適切に活用した学習活動の充実を図っているか。 【昨年度の課題・改善策】 I C T機器を活用したオンライン授業においても指導と評価の一体化を図るとともに、信頼性・妥当性の高い学習評価を行うこと。 | 取組状況 | ○目的に応じてI C T等を積極的に活用している。 ○児童の学習状況の把握や、資質・能力の向上、教員の業務の効率化を目的とした活用をしている。 ○I C T等を活用した学習活動を通して、児童の情報活用能力や、自分の考えを伝える力を高めている。 |
| | | 特色 | ○G o o g l e認定教員、ロイロ認定ティーチャーなど、多くのI C Tに関する資格を持った教員が中心となってI C Tの活用を進めている。 |
| | 評 定 | A | 課題・改善策 — |
| その他 | | | |

| 表 題 10 | | 学校の特色を生かした特別の教育課程に関すること | |
|--------|--|-------------------------|--|
| No. | 評 価 項 目 | 評 価 意 見 | |
| 1 | <p>児童の英語に関する到達度を計画的に把握するとともに、指導と評価が一体化した授業が行われているか。</p> <p>【昨年度の課題・改善策】</p> <p>全体研修や学年教務会などの継続により、学習評価に関することへの理解を深めるとともに、各教員がよりカリキュラムの内容と、学年ごとのつながりを意識して指導と評価を行うことが望まれる。</p> | 取組状況 | <p>○新しく英語科のカリキュラムを策定し、その達成状況を把握するように努めている。</p> <p>○全体研修や学年教務会などを引き続き実施し、カリキュラムに関する教員全体の共通理解に努めている。</p> <p>○6年間を通して、発達段階に応じた系統的な指導を行うことが可能となり、教員の授業力の高まりにつながっている。</p> |
| | 評 定 | B | 課題・改善策 |
| 2 | <p>日本語能力の習得や、日本の伝統文化に関わる学習を実践するための指導計画が作成されており、それに基づいて指導が行われているか。</p> <p>【昨年度の課題・改善策】</p> <p>コロナ禍においても学習を実践できるよう、イベント的な行事のみならず、教科指導の中で行われる日本の伝統文化に繋がる授業・指導を充実させていくことが望まれる。</p> | 取組状況 | <p>○教科指導において、日本の伝統文化の学びにつながる映像授業や校外学習を取り入れ、学びを深めるための授業の充実を図っている。</p> <p>○学校便りにおいて、定期的に季節の話や日本の食文化を取り上げ、家庭内においても日本の伝統文化に触れる機会を設けている。</p> |
| | 評 定 | B | 課題・改善策 |
| その他 | | | |

| 表 題 11 | | 学習指導に関すること | |
|--------|---|------------|---|
| No. | 評価項目 | | 評価意見 |
| 1 | <p>学習指導要領に則り、児童の発達段階に即した指導がなされているか。</p> <p>【昨年度の課題・改善策】 英語と日本語の両方で指導する教科が、使用する言語によって評価が分かれる場合には、引き続き教員間で丁寧な話し合いを行い、評価規準に基づいた適切な評価が実施することが求められる。</p> | | <p>取組状況</p> <ul style="list-style-type: none"> ○学習指導要領に則った指導を展開している。 ○児童の実態に応じて、習熟度別授業を取り入れているほか、コーディネーター等との連携も図っている。 ○教員の使用する言語によって評価が分かれる場合には、教員間でいいねいなしの話し合いの場を設け、適切な評価ができるように心がけている。 |
| | | | <p>特色</p> <ul style="list-style-type: none"> ○複数の教員で児童を見ることにより、児童一人ひとりの学習状況に応じたきめ細かい指導を行っている。 ○低学年にはサポートティーチャーを配置し、児童の状況に応じたサポートを実施している。 |
| | 評 定 | B | <p>課題・改善策</p> <ul style="list-style-type: none"> ○国立教育政策研究所の「学習評価の参考資料」等を参考にしながら適切な評価規準を作成し、引き続き指導と評価の一体化を図ることが求められる。 |
| 2 | <p>体験的な学習、問題解決的な学習及び児童の興味関心を生かした自主的・自発的な学習が適切に行われるよう努めているか。</p> <p>【昨年度の課題・改善策】 コロナ禍においても、引き続き体験的・問題解決的な学習を行う方法を追究することが望まれる。</p> | | <p>取組状況</p> <ul style="list-style-type: none"> ○体験的な学習、問題解決的な学習、及び児童の興味関心を生かした自主的、自発的な学習活動を行うように努めている。 |
| | | | <p>特色</p> <ul style="list-style-type: none"> ○サマーキャンプやスキーなど多くの体験的な学習を行っている。 ○問題解決的な学習を英語の授業の中で多く取り入れている。 |
| | 評 定 | B | <p>課題・改善策</p> <ul style="list-style-type: none"> ○各学習において身に付けたい資質・能力をより明確化したうえで指導に臨むことが求められる。 |
| 3 | <p>学級内における児童の様子や、学習に適した環境の整備など、学級経営が適切に行われているか。</p> <p>【昨年度の課題・改善策】 引き続き、学校全体がチームとなり、児童やその児童を指導・支援する担任等をサポートする体制が整備されることが望まれる。</p> | | <p>取組状況</p> <ul style="list-style-type: none"> ○担任と副担任が連携し、学年全体で児童理解に努めるとともに、教務主任を複数配置し、報告・連絡・相談がしやすい環境を整えている。 ○学級担任の業務をまとめた英語版のマニュアルを作成し、教室環境の整備を含めた適切な学級経営について、指導を行っている。 |
| | | | <p>特色</p> <ul style="list-style-type: none"> ○少人数クラスの良さを生かすとともに、担任、副担任、専科教員等がチームとなり、多くの目で児童の様子を把握し、問題解決に当たっている。 ○毎月 well-being の調査を行い、その結果を授業改善や学級経営改善の参考としている。 |
| | 評 定 | B | <p>課題・改善策</p> <ul style="list-style-type: none"> ○well-being の結果や児童の見取りを適切に分析し、引き続き学級経営の充実に努めることが望まれる。 |

| | | | | |
|-----|---|---|--------|---|
| 4 | 年間指導計画に則り、「特別の教科 道徳」の指導が適切に行われているか。 【昨年度の課題・改善策】 引き続き、日本人教員と外国人教員が指導方法等について、共通理解を図るための研修の充実が望まれる。 | | 取組状況 | ○年間指導計画に則り、「特別の教科 道徳」の指導を適切に行っている。 ○児童の実態に合わせて適宜教材の作成や内容を入れ替えたりしている。 ○学校として児童に身に付けたい道徳的な判断力や心情などについて、共通理解を図るための研修を実施した。 |
| | 評 定 | B | 特色 | ○担任、副担任、教務主任など様々な立場の教員が道徳を指導し、多様な価値や様々な意見を考えやすい状況で指導を行っている。 |
| | | | 課題・改善策 | ○授業で使用する言語や教材に関わらず、児童に道徳的判断力や道徳的实践力等が身に付くような授業づくりが求められる。 |
| その他 | | | | |

| 表 題 12 | | 児童指導に関すること | |
|--------|---|------------|---|
| No. | 評 価 項 目 | 評 価 意 見 | |
| 1 | <p>全教職員が児童指導に取り組めるように、体制が整備されているか。</p> <p>【昨年度の課題・改善策】</p> <p>共有した情報を基に、即時かつ細やかな対応ができるように、今後も体制整備の充実が望まれる。</p> | 取組状況 | <p>○教務主任を複数配置し、報告・連絡・相談がしやすい環境を整えている。</p> <p>○児童指導に関する情報を記録に残して共有するとともに、児童指導部会を毎月行い、即時かつ細やかな対応に努めている。</p> |
| | 評 定 | B | 課題・改善策 |
| 2 | <p>保護者や地域社会、関係機関等と連携・協力が図られているか。</p> <p>【昨年度の課題・改善策】</p> <p>「さがみ風っ子展」においては作品の出展で終わらず、相互に作品を鑑賞し、様々な言語で感想を伝え合う取組などを行い、より深い連携が図られることが望まれる。</p> | 取組状況 | <p>○「LCA 北の丘センター 小中学校児童生徒作品展」では、公立小中学校の作品を鑑賞するとともに、日本語と英語で感想を伝え合う取組を行った。</p> <p>○東京家政学院大学と教育連携協定を結び、大学教員による授業を実施したほか、相原高校と動物と触れ合う交流をしている。</p> |
| | 評 定 | B | 課題・改善策 |
| 3 | <p>保護者と連携・協力して、基本的な生活習慣が身に付けられるよう努めているか。</p> <p>【昨年度の課題・改善策】</p> <p>基本的な生活習慣は文化の違いが表れやすい部分でもあるため、児童の文化的背景なども考慮しながら細やかな指導が継続されることが望まれる。</p> | 取組状況 | <p>○学級便りや学校便り、保健便りなどを活用し、基本的な生活習慣について保護者に周知している。</p> <p>○個別の配慮が必要な児童に対しては、児童支援コーディネーター等と連携し細やかな対応を行っている。</p> |
| | 評 定 | B | 課題・改善策 |
| 4 | <p>学校生活全体を通し、豊かな人間関係づくりに努めているか。</p> <p>【昨年度の課題・改善策】</p> <p>異学年交流や多文化理解などの活動を、更に充実させていくことが望まれる。</p> | 取組状況 | <p>○6年生による1年生のサポートや、全校遠足における2学年ごとの異学年交流など、豊かな人間関係づくりのための活動を適宜設定している。</p> <p>○月1回の朝会の中で、様々な海外にルーツを持つ教職員が母国の紹介等を行うことで、多文化理解を深めている。</p> |
| | 評 定 | B | 課題・改善策 |

| | | | |
|-----|--|----------|---|
| 5 | 命の大切さや環境の保全、社会の一員としての意識（公平・公正、勤労、奉仕、公共心、公德心や情報モラル等）や、規範意識の向上に努めているか。 【昨年度の課題・改善策】 児童の意識向上に向けた取組が、今後も継続、充実されていくことが望まれる。 | 取組 状況 | ○朝会において、校長講話の他に、各学年の教員が自分の境遇や経験に基づいた幅広い話題提起を行い、命の大切さや規範意識の向上につながる機会としている。 ○隔月で保護者に対して行うレクチャー(学校方針説明を含む)の中で、児童に伝えているモラル指導等の内容を説明し、保護者への啓発を図っている。 |
| | 評 定 | B | 課題・ 改善策 ○引き続き、児童の意識向上や保護者への啓発に向けた取組が充実されていくことが望まれる。 |
| 6 | いじめ防止や早期発見に向けて、適切な対応が図られているか。 【昨年度の課題・改善策】 児童の僅かな変化に気付くために、今後も休み時間の児童観察や、児童同士の関係把握に努めることが望まれる。 | 取組 状況 | ○児童同士の関係把握のため、休み時間に学年教員が交代で見守りを行っている。 ○エンリッチメントタイムを利用し、担任・副担任が児童と一対一で話をする時間を設けるとともに、相談の内容に応じて、カウンセリングルームや会議室などの個室で実施している。 ○相談内容は記録に残し、教職員で共通理解する機会を設けている。 |
| | 評 定 | B | 課題・ 改善策 ○引き続き、児童に関わる様々な教職員から情報を収集し、児童の関係把握に努めることが望まれる。 |
| 7 | インターネットを通じて行われるいじめの防止に向けた啓発活動が行われているか。 【昨年度の課題・改善策】 ネットモラルなど学級指導的な側面が強い活動においては、しっかりと理解を図ることができるよう、内容に応じて日本語で指導を行うなど言語の選択を適切に行うことが望まれる。 | 取組 状況 | ○発達段階に応じたネットモラルの授業を計画・実施するとともに、内容に応じて日本語で指導を行っている。 |
| | 評 定 | B | 課題・ 改善策 ○引き続き、6年間を見通した系統性かつ状況に応じた即時性のあるICTリテラシーの指導に努めることが望まれる。 |
| 8 | いじめが発生した際、適切・迅速な対応が図られる体制は整っているか。 【昨年度の課題・改善策】 今後もエンリッチメントタイムなどの活用により児童の変化を早期に発見し、得られた情報を職員全体で共有しながら多くの目で見守り、指導・支援を行う体制づくりの継続が望まれる。 | 取組 状況 | ○エンリッチメントタイムを利用し、担任・副担任が児童と一対一で話をする時間を設けるとともに、相談の内容に応じて、カウンセリングルームや会議室などの個室で実施している。 ○相談内容は記録に残し、教職員で共通理解する機会を設けている。 |
| | 評 定 | B | 課題・ 改善策 ○エンリッチメントタイムについては、教科指導の時数確保に留意しながら、適切に活用していくことが望まれる。 ○今後もエンリッチメントタイムなどの活用により児童の変化を早期に発見し、得られた情報を職員全体で共有しながら多くの目で見守り、指導・支援を行う体制づくりの継続が望まれる。 |
| その他 | | | |

| 表 題 13 | | 教職員の研修・評価に関すること | |
|--------|--|-----------------|--|
| No. | 評 価 項 目 | 評 価 意 見 | |
| 1 | 校内、校外における研究・研修等を通じて教職員の資質・能力向上についての取組がなされているか。 【昨年度の課題・改善策】 — | 取組状況 | ○教科部会、学年会といった様々な単位で研修を実施している。 ○学校の教育理念の共有や児童指導についての共通理解を図っている。 ○休業期間中においても、ワークショップ形式の研修を実施している。 |
| | | 特色 | ○教員同士で個別に相談ができるような人間関係づくりを構築するための研修を行っている。 |
| | 評 定 | B | 課題・改善策 ○動画資料などを活用し、引き続き教員の授業力が高まるような研修を行うことが求められる。 |
| 2 | 「特別の教科 道徳」の授業が効果的に行われるような研修体制が整備されているか。 【昨年度の課題・改善策】 指導する道徳的価値について、国籍を問わず全教員が共通理解できるような研修を引き続き行うことが望まれる。 | 取組状況 | ○日本人教育と外国人教員それぞれの言語の特徴を踏まえたうえで、教材研究を行っている。 |
| | | 特色 | ○学校として児童に身に付けたい道徳的な判断力や心情などについて、共通理解を図るために、管理職による講話や模範授業などを中心とした研修を実施している。 |
| | 評 定 | B | 課題・改善策 ○動画資料などを活用し、外国人教員を含めた全教員が学習指導要領において求められる道徳的な判断力や実践意欲などをより深く理解するとともに、道徳の授業力が高まるような研修を行うことが求められる。 |
| 3 | 外国人教員の普通免許状の早期取得に向けた取組が行われているか。 【昨年度の課題・改善策】 大学等の教育課程を履修している教員は昨年よりも増加しているが、外国人教員の普通免許取得者の割合はまだ少ないため、引き続き取得に向けた計画的な取組が求められる。 | 取組状況 | ○臨時免許を取得している外国人教員が、県内大学の通信教育課程で履修をし、日本の小学校二種免許状の取得に取り組んでいる。 ○令和4年度に9名履修、内1名が普通免許状を取得。令和5年度は新たに1名が履修を開始し、現在9名履修中。 ○履修していない外国人教員に対し、普通免許状の取得に向けた促しをしている。 |
| | | 特色 | ○普通免許状の取得に向けて、学費の支給や社内での日本語講座など、会社全体で履修者をサポートする体制を整えている。 |
| | 評 定 | B | 課題・改善策 ○普通免許状取得者が昨年度よりも増えているが、外国人教員の普通免許取得者の割合は少ないため、普通免許取得に向けた計画的な取組が求められる。 |

| | | | |
|-----|---|------|---|
| 4 | 教職員の人事評価体制が整っているか。 【昨年度の課題・改善策】 労働者に対して、適切な人事評価を行うことは管理職の重要な責務であり、賃金規定に照らして適切に実施できるよう、引き続き、正式運用に向けての検討と実証を進めていくことが望まれる。 | 取組状況 | ○昨年度の試作版を改善し、引き続き試行した。 ○評価は、「自己評価」「直属の上長評価」「管理職」の3段階で行っている。 |
| | | 特色 | ○校務分掌に対する自身の取組について、具体的な数値目標を設定させることで、客観的な評価を目指している。 |
| | 評 定 | B | 課題・改善策 ○正式な運用を見据え、試行による課題等を検討し、改善することにより、適切な人事評価を実施していくことが求められる。 |
| その他 | | | |

| 表 題 14 | 学校保健に関すること | | |
|--------|---|---------|--|
| No. | 評 価 項 目 | 評 価 意 見 | |
| 1 | 感染症の予防に対し、学校保健安全法に基づく出席停止、臨時休業等の適切な対応ができる体制が整っているか。 【昨年度の課題・改善策】 引き続き、感染症の予防に向けた取組、体制等を継続することが望まれる。 | 取組状況 | ○感染症については、養護教諭を中心として、学校医と連携を取り、出席停止や臨時休業等の対応をしている。 |
| | | 特色 | ○小学校本科とアフタースクール事業、ウィークエンド事業が連携をとり、様々な情報を共有している。 |
| | 評 定 | B | 課題・改善策 ○引き続き、感染症の予防に向けた取組、体制等を継続することが望まれる。 |
| その他 | | | |

| 表 題 15 | | 学校安全に関すること | |
|--------|---|------------|---|
| No. | 評価項目 | 評価意見 | |
| 1 | 交通安全や災害発生時の安全に関する指導（避難訓練、交通安全教育等）が適切に行われているか。 【昨年度の課題・改善策】 広域より通学している特性から、今後は登下校時の災害遭遇を想定した計画、指導も検討していくことが望まれる。 | 取組状況 | ○火災避難訓練、地震避難訓練、ファイヤースクール、交通安全教室を、関係機関と連携し実施している。 ○広域より通学している特性から、登下校時の災害遭遇を想定した指導の計画を検討している。 |
| | 評 定 | B | ○外国人教員、日本人教員それぞれに安全・防災の責任者を立て、計画実施・振り返りを行っている。 ○広域より通学している特性から、引き続き登下校時の災害遭遇を想定した計画、指導を検討していくことが望まれる。 |
| 2 | 災害発生時や事件発生時における児童の安全確保の対策及び危険発生時に対処するための職員の訓練等をどのように講じているか。 【昨年度の課題・改善策】 今後も様々な危険発生時を想定した訓練を、計画的に行っていくことが望まれる。 | 取組状況 | ○教職員による不審者対応訓練を行うとともに、専門家によるセキュリティ対策診断を実施し、日常的に点検する事項を確認した。 ○大規模災害を想定し、避難場所、児童の引き渡し方法、備蓄品や発電機等の確認を行っている。 |
| | 評 定 | B | ○外国人教員、日本人教員それぞれに安全・防災の責任者を立て、計画実施・振り返りを行っている。 ○今後も様々な危険発生時を想定した訓練を、計画的に行っていくことが望まれる。 |
| その他 | | | |

| 表 題 16 | | 自己評価の実施状況に関すること | |
|--------|--|-----------------|--|
| No. | 評価項目 | 評価意見 | |
| 1 | 自己評価の項目は適切か。 【昨年度の課題・改善策】 引き続き、設定した目標に応じて、年度ごとに評価を見直す等の改善を図ること。 | 取組状況 | ○前年度の結果をもとに、適切に評価項目が設定されている。 |
| | 評 定 | B | ○引き続き、設定した目標に応じて、年度ごとに評価を見直す等の改善を図ることが望まれる。 |
| 2 | 自己評価の結果を、翌年度の指導目標等の改善に活用しているか。 【昨年度の課題・改善策】 引き続き、目標が達成されていない事項を明確にして、年度ごとに重点を見直す等の改善を図ること。 | 取組状況 | ○前年度の結果をもとに、おおむね具体的な改善策が検討、実施されている。 |
| | 評 定 | B | ○引き続き、目標が達成されていない事項を明確にして、年度ごとに重点を見直す等の改善を図ることが望まれる。 |
| その他 | | | |

| 表 題 17 | | 情報公開・個人情報の保護に関すること | |
|--------|---|--------------------|--|
| No. | 評 価 項 目 | 評 価 意 見 | |
| 1 | 学校に関する情報公開について、学校便りや学級便りの発行などを通して、主として保護者を対象とした情報の伝達・公開が適切に行われているか。 【昨年度の課題・改善策】 教職員等の過重負担とならないよう配慮しつつ、引き続き積極的な情報公開・共有を図ることが望まれる。 | 取組状況 | ○公開する情報を精査し、担当を明確にするなど、教職員の負担に配慮しながら、保護者向けに定期的かつ適切に情報公開を行っている。 |
| | 評 定 | B | 課題・改善策 |
| その他 | | | |

| 総合評価 |
|---|
| 教育内容等については、全30項目中、評定Aが1項目、評定Bが29項目、評定Cはなかった。教育内容等については概ね適切な対応が図られている。 |

Ⅳ 経営

所 見

(1) 学校経営の安定性・継続性

○ 小学校事業に関するマネジメント

令和5年度春の入学人数は61名、令和5年5月1日時点での在籍人数は295名となった。2年連続で減少していた在籍人数が増加に転じた。

令和4年度中の退学人数は17名であり、退学率（全校児童数に対する退学人数の割合）は6パーセントであった（前年度比0.2ポイント増）。

○ 中長期的な事業承継

社長職は令和5年6月に交代、校長職は4年後に承継する計画が示されたが、学園長職は継続の意向を示している。

株式移転に関する文書化された計画はないが、学園長は現時点で親族や第三者への株式移転を考慮しておらず、役員に移転する意向である。

(2) 学校法人化に向けた取組

○ 令和5年3月期は増収増益

令和5年3月期決算は、授業料、入学金、各種スクールでの収入により、前期と比較すると増収となった。外注費、スクール経費、労務費が増加する一方で、その他の経費が抑制されたことにより、営業利益、経常利益及び当期利益は増益となった。

今後、学校法人化を目指すに当たっては、小学校の児童定員数及び各種スクールの受講者の適切な人数の確保等、引き続き増収、負債削減に向けた取組を進める必要がある。

総合評価

小学校を運営する団体として、株式会社エデュレエルシーエーの経営状況については、今後数年間の範囲では問題はないと評価する。小学校の児童定員数及び各種スクールの受講者の適切な人数を確保し、収入の安定化を図ることに努められたい。

また、安定的・継続的な学校運営に向け、教員の離職や児童の中途退学の要因分析を着実にを行い、その結果を踏まえ、適切に対応するとともに、具体的な計画等に基づき、徹底した経費削減を進め、負債削減に取り組まれたい。

加えて、学園長に事故があるとき、又は学園長が欠けた場合など、緊急時における学校の体制の強化・充実を進めるとともに、中長期的な事業承継については、株式の移転時期・方法や借入金の個人保証の解除について十分に検討し、円滑な事業承継に向けた取組を進められたい。